

令和3年度

第1回 福知山市行政改革推進委員会

議事概要

令和3年5月7日(金)に令和3年度福知山市行政改革推進委員会(第1回)が開催され、(仮称)第7次行政改革大綱の策定等について審議が行われました。

第1回委員会の議事概要は別添のとおりです。

第1回福知山市行政改革推進委員会 議事概要

日時: 令和3年5月7日(金)

午後1時00分～午後2時30分

場所: 旧庁舎2階 オンラインルーム

■出席者

【委員(敬称略)】

深尾 昌峰(委員長)、菊田 学美(副委員長)、井上 拓、浦尾 たか子、細見 祐介、村尾 慎哉 ※全員オンライン参加

【市】

熊谷特別参与(オンライン参加)

市長公室長、財務部長、経営戦略課長、財政課長ほか事務局

■報告事項

(1)事業評価(事後・事中)の実施について

「資料4 令和3年度事業評価(事後・事中) について」に沿って事務局より説明

委員

この4年で棚卸しがひと段落し、次のステップに入っていると思う。

今後は具体的に何をするのか。新規事業が事後評価をされたことについて、委員が意見を述べることになるのか。

市

新規事業について、事業評価は、今後は内部の職員により行うことになる。その内部職員が行った評価を委員の皆様へ報告し、来年度事業への展開について職員がどのように評価しているのか等も含めて、ご意見をいただきたい。

■議事

(1) (仮称)第7次行政改革大綱の策定について

「資料5 (仮称)第7次行政改革大綱の策定について」に沿って事務局より説明

委員

本委員会として、本日、第7次行政改革大綱を検討し、合意をすれば次回の委員会で市長から諮問を受けるということになる。それを前提としながら、大綱の策定と基本方針・取組項目の検討について、事務局案を出してもらったが、コメントや質問等はあるか。

委員

大綱の基本方針に「緊急時の対応」の要素を盛り込んでみては。各行政・自治体は財政が苦しい中でいろんなものを削減し、結果、このコロナ禍で緊急時に必要なサービスが迅速に提供できなくなるリスクをはらってしまったことが浮き彫りになったように思う。当然、費用をかければいいという話ではないと思うが、ICT 技術を活用し、事前に非常時の対応をしておくことは非常に重要。こういったことを基本方針の中に盛り込めるのでは。

二点質問で、一つは策定中の「まちづくり構想 福知山」のスケジュール感を教えてほしい。

もう一つは、大綱策定を進める中で、市民の声についてはパブリックコメントを実施して取り入れると説明があったが、いわゆる職員の声を集めるといった取組については検討しているのか。もしくは今後検討してほしい。やはり若い職員の方が自ら問題意識を持つことは、ボトムアップの改革の機運を高める等、人材の意識改革についても非常に良い影響があると思う。

委員

「緊急時の対応」についてはぜひ議論してほしい。

市

質問について、「まちづくり構想」は、現在、市民約100名と市民懇談会を行い、今後20、30年先の福知山がどのようなまちでありたいか等の意見をいただきながら進めている。しかし、4月下旬にも市民懇談会を予定していたが、コロナの影響により延期した。今後市民懇談会を開催し、意見がまとまるのが概ね8月頃としている。併せて審議会という形で意見をいただく場を設定しようと思っているが、次回・次々回の委員会で可能な限り「まちづくり構想」の輪郭を示せる分については提示したい。

二点目のパブリックコメントの実施については、委員の皆様の意見を頂戴しながら検討したい。職員の意見を取り入れる件については、先ほど、必要な資料の準備は庁内組織で対応する旨を説明したが、委員より職員の意見なども取りまとめるよう指示があれば、事務局側から庁内組織へ情報提供し、準備を進めたい。

委員

ボトムアップという点では、業務改善や市民との関係の中で、これまで従来の ICT 活用の発想ではなくなってきている。DX(デジタルトランスフォーメーション)や AI(人工知能)について職員の方々に意見を聞くなど、何かを軸に持ちながら話を聞くのも面白いのでは。

委員

資料5の「4 次期行革大綱の基本方針、取組項目の検討にあたって(事務局案)」の5つの項目はどれも大事な視点であると思うが、①から⑤の項目の順番は取組の優先順位で書かれているのか、あくまで取組項目ということで書かれているのか。目的と手段が混同して扱われている。又、行革の流れで考えると、「(5)SDGSに呼応した行政運営の推進」から順に検討すべきではないか。

市

この項目は、あくまでも事務局案として今後検討を進めるにあたり大切にしていきたい視点であり、今の段階で順位を設けているものではない。今後、追加事項も含め、委員から意見をいただき、構成していけたらと考えている。

委員

第6次行革大綱と第7次行革大綱の事務局案で、特に大きく変わっているところはあるか。

市

ポイントとしてはICT技術の活用である。この視点は第6次行革の中でも設けていたが、昨今、行政のデジタル化の推進が目まぐるしく、よりクローズアップして取組項目に入れていきたいと考えている。また、SDGsに呼応した行政運営もまちづくりのキーワードとして進めていくことが大切になってきている。福知山市でもそうした視点を持って今後まちづくりを進めていくため、行政改革においても関連した取組を落とし込む必要があると思う。

委員

第6次行政改革では、限定的な取組項目や計画の硬直化が課題としてあがっており、今後は、社会の情勢や市民ニーズに寄り添った項目もしくは計画に変えていくのだと読み取った。それが反映できるように、どのような大綱になっていくのか。

資料5「3 次期行革大綱策定にあたって(事務局案)」の「(4)市民に分かりやすい大綱」に「取組事項を明確に定める」とあり、硬直化した計画を改善していくことと相反するように読み取れるが、どのような工夫をしようと考えているのか。

また、事業評価を行う中で、総合計画とそぐわなくなってきたりしてしまっている事業がたくさん見受けられた。今後つくる「まちづくり構想 福知山」に、社会情勢に応じて変えていける要素を盛り込む予定か。

市

一点目、第6次行政改革については、大綱もそうだが、いわゆる実施計画を立てている。第6次行政改革には4つの項目、12の方針があるが、その下に108の項目があり、5年間で108の項目について進捗を追いかける動きをしている。行革の目標自体が、この積み上げになっているところもあり、平成27年当時に定めた目標に向かって、どの程度進捗したかという確認をしているので、5年間の社会情勢の変化に臨機に対応した行革にはなっていなかったという点は反省点である。この108項目も第5次の計画から、ほぼ引き続き同じ内容で取り組んでいるものがおよそ4割ある。そういった観点からすると、10年以上取組を進めている項目もあり、こういった項目はタイムリーな取組に変えていかないといけない。では、7次の大綱の取組はどうするのかという質問に対しては、いわゆる実施計画というようなものではなく、総合計画の進捗と合わせて、それぞれの施策の中で取り組める行革項目をあらかじめ定める中で最適な取組をしていきたい。これについては、今回重点項目や取組の方針等も確認いただく中で、順次示したいと思っている。なので、最初から108の計画を決めるのではなく、その時、その施策に対応が可能な取組を優先的に進められるような柔軟性を持たせたいと思っている。

二点目、まちづくり構想との関係については、施策と事業の関連は非常にあやふやなところがある。事業棚卸しについても、答申の中で、いわゆる施策との関連性が非常に不十分ではないかという指摘もあったので、新たに「まちづくり構想 福知山」という総合計画を策定する中で、改めて施策と事業について紐づけを行っていきたい。その上で、施策と事業の体系を改めて見直す取組を進めていきたいと考えている。この取組についても本委員会でも報告しながら進めていきたい。

委員

第6次行革が令和2年度までであった。令和4年度から第7次である。令和3年度は空白の1年間となるが、この1年間は第6次の行革を総括するといったほかに、どのようなかたちで行革は進むのか。

市

資料5「1 これまでの行政改革の取組」の「(3)第6次行政改革の進捗状況(令和元年度末)」に「①中心的な課題として取り組む項目」として3点、「②財政指標の改善に関する項目」として3点、「③実施項目(108項目)の取組状況」として108項目の取組状況を示している。令和3年度に関しては空白の期間となるが、①②のそれぞれ6次で定めた項目については引き続き現状を維持する。③についても、実施中のものが78項目ある。こちらについては、令和2年度の完了を目途に目標として進めていたが、現在達成していないというものもあるので、令和3年度も引き続き進めたい。なお、この中で5年経っても「検討中」となっている項目については時代の流れの中で修正が難しかったものがある。こういったものも第7次行革では検討を進めたい。

委員

次回、市長から諮問があつて議論が本格化していく方向。今回の委員からの指摘事項等を踏まえ、次回の委員会より、第7次行政改革大綱の策定に向けて事務局から様々な資料の提示を受けつつ、委員会で議論を進めていきたいが、どうか。

(→ 全委員異議なし)

全会一致で承認。次回以降、活発な議論をお願いしたい。

(2)新しい行政評価システムの構築について

「資料6 新しい行政評価システムについて」に沿って事務局より説明

委員

説明された内容の方向性で進めるとよいと思うが、取組を進める中でいろんな問題点・課題が出てくると思うので、そのあたりも適宜報告いただければありがたい。

市

KPIや成果指標をどう設定していくかというのはかなり難しい上に、設定の仕方によっては陳腐化してしまったりすることもあるので、そのあたりも含めてシートのあり方等、システムとしてどう機能させていくかという議論を次回からしていくことになると思う。大きな方向性としては了解していただけるか。

(→ 全委員異議なし)

次回から委員会のほうで議論を進める。

(3)委員会に係るスケジュールについて

「資料7 令和3年度行政改革に係るスケジュールについて」に沿って事務局より説明

(特に質問・異議なし)

■その他

市

国の行革本部が中心になって進めているEBPM(エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング)の流れとして、根拠に基づいて計画や目標を設定する、毎年度の予算要求についても根拠のあるデータをもとに要求する、そうでないものは基本的に予算要求を認めないというスタンスの方向に変わろうとしている状況にある。その時に、今、福知山が取り組もうとしていることが、5年間の計画と言っていたが、5年後を見据えての話なのか、それとも5年前の国を後追いするだけなのかという点を、委員会では客観的な視点で指導いただきたい。第6次行革が終わるから7次行革をつくるというのではなく、第6次行革で大きく目指したものは何だったのか、第7次行革は何を目指すのか。持続可能な行政という「持続可能」というのを市は何で計ろうとしているのか、SDGsにふさわしい行政運営とは何のことを言っているのか。分かっているようで分からない言葉でまとめた大綱ではなく、明確な行動に置き換えられるものにしなければならないのでは。

委員のみなさんには今まで以上にそういった視点からの意見を頂きたい。

以上